

動きなきなほよろづよぞたのむべきは。こやのやまのみねの松風

〔八代集抄千載〕こゝにては、仙洞を申なるべし、

〔續千載和歌集十七〕山月といふ事をよませ給うける

こゝろすむはこやの山の秋の月二たび世をもてらしつるかな

〔新續古今和歌集七〕應永廿六年三月、仙洞にて、鶴馴砌といへる事を講せられけるに、

權大納言實秋

もろともにみぎりのたづもよばふなりはこやの山のよろづ世のこゑ

上尊號式

〔柱史抄下〕太上天皇尊號事

先帝讓位之宣命、停太上天皇號、而新帝即位之初、詔書上太上天皇尊號、當日上卿著陣、召內記仰云、

太上天皇尊號詔書可草進、內記持參之、草清書等、內覽奏下如恒、有御上卿召中務給了、此次藏人以

口宣可差進院御隨身之由、仰上卿、上卿召左右次將一々仰之、

〔小右記〕長和五年二月十四日己丑、昨日、略被行太上天皇三尊號之詔書事、大內記義出、作又被

仰下被奉御隨身之宣旨、左近、頭中將資平、右近、外記傳、仰陣宣、頭中將資平來云、昨日攝政及公卿達被參院、別當被定

下院司別當資平、季隨、前土佐守、左衛門權佐資業、并所々別當所謂、別當所職事等、略右大臣顯光被奉行太上天皇

尊號事、詔書草以內記被奉攝政、藤原道長諸卿云、不可然事也、是內覽之議也、至今以辨若頭藏人、可被

奉也云々、清書以資平被奉、御晝日攝政書者、院御隨身宣旨、右府仰下、被奏詔書之次、便被仰左近御

隨身事者、攝政者可被仰也、四條大納言藤原公任云、被仰左右近將也者、

裏書

詔朕以庸虛忝承、叙託膺龍圖而寒心、虞夏之道難達、履帝跡而步薄、陽春之水欲辛、誠是君國之號雖

尊、子民之化、猶淺者也、太上天皇天地其性、日月其明、風化彌高、道榮於華、胥民□□□□狀問道於